

埋文にいがた

No. 72
2010. 9. 30

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

平成22年度発掘調査遺跡の紹介

山口遺跡

(阿賀野市山口字城ヶ窪2887ほか)

遺跡は旧阿賀野川や旧小里川右岸に形成された標高約6mの自然堤防上に立地します。一般国道49号阿賀野バイパス建設に伴い平成22年4月から発掘調査を行っており、調査面積は3,500㎡です。

平成20年度に行った西側の調査では弥生時代前期の集落が見つかり注目を集めました。今年度は古代・中世が主体です。古代では掘立柱建物6棟のほか、竪穴建物や土坑などが見つかりました。竪穴建物は1辺約3mの方形で、深さは45cmです。カマドはありませんが、底面付近で炭化物が集中して見つかり、何らかの作業場であった可能性も考えられます。また、長さ約2～6.5mの短い溝や埋土に焼土粒が混じる小規模な土坑が点在することも特徴です。遺物は佐渡小泊の須恵器を多く含み、9世紀中ごろに営まれた集落と考えられます。

中世では掘立柱建物、井戸、土坑、溝などが見つかりました。溝の中には1辺約65mの方形に巡ると見られる区画溝があり、この内部から掘立柱建物や井戸が多く確認されました。掘立柱建物のなかには柱を抜き取った穴に打ち割られた茶臼が埋められたものもあります。また、井戸は建物の近くから23基見つかりました。井戸側を持つものは1基だけで、ほかはすべて素掘りです。中世の遺構は平成20年度の調査でも見つかり、これを合わせると集落は東西200m以上にわたり続くことが分かりました。遺物はごくわずかですが、14世紀代の珠洲焼などが出土していることから、おおむねこの頃の集落と推定されます。

「山口」の地名は中世白河荘水原条の範囲を記した地頭大見氏の文書に「南限山口田尻江」とあり、遺跡周辺が水原条の南限付近にあったと考えられます。近年、山口遺跡と旧小里川を挟んだ西側の柄目木遺跡や村前東A遺跡でもほぼ同時期の集落が調査されたほか、南東側2kmにある境塚遺跡や山口野中遺跡では居館や大規模な道などが見つかり、大見氏が活躍した鎌倉～室町時代の水原条の景観が明らかになりつつあります。

(荒川隆史)



調査範囲全景(西から)



古代の竪穴建物(幅3m・深さ45cm・南から)



中世の区画溝と掘立柱建物・井戸(北から)

平成22年度発掘調査遺跡の紹介

ろく たん だ み な み
六反田南遺跡Ⅴ
やまとがわ
 (糸魚川市大字大和川字六反田地内)

海川右岸、日本海から約300m内陸の沖積地に立地し、標高は3.8～5.5mです。一般国道8号糸魚川東バイパス建設に先立ち、平成18年度から発掘調査を行っています。これまでの調査で、3面(上・中・下)の文化層があることが分かっています。上層では古墳時代前期の玉作関連遺物を多く含む土坑や古代(8～9世紀代)の掘立柱建物など、中層は縄文時代中期中葉～後期にかけての土器や石器、下層では縄文時代中期前葉～中葉頃の多量の土器と石器、竪穴住居や土坑、魚の骨や種子などの食べかすを廃棄したゴミ捨て場などが見つかりました。今年度は4月から11月まで3調査区、延べ5,200㎡を調査する予定です。今回は、上層の調査が終了したA1区とAP1区について報告します(写真1)。

調査範囲の地形は、北から南に緩やかに傾斜しています。遺構・遺物は標高の高い北側に多いことが分かりました。

遺構は古代(8世紀代)が主体で、掘立柱建物、土坑、溝、多数の柱穴、水田などを検出しました。柱穴の多さから、断続的に建物が建てられていたと考えられます。なかでもSB761は大型の建物です(写真2)。桁行き5間(11m)、梁行き2間(5.8m)で、北側に深さ約20cmの溝を持ちます。柱穴の規模は幅45～80cm、

深さ40～60cmと他の柱穴に比べ、特に大きいものです。柱が残存しているものはありませんが、断面に残された痕跡から、太さ20cm以上のものが使われていたことが分かりました。このような大型の建物が一般集落で見られることはあまりないことから、有力者の居宅もしくは、公的な性格を持つ施設である可能性があります。

遺物は古墳時代から古代の土師器・須恵器などの土器が多く出土しています。特筆されるのは、柱穴から出土した古墳時代の「甕」(胴部に注口を取り付ける小さい孔のある壺形の須恵器)です(写真3)。残念ながら、胴部よりも上の部分は欠落していましたが、こぶし大の礫3つとともに、柱を抜き取った穴に埋められた状態で見つかりました。

今後、中層・下層と調査を進めていきます。昨年度までの調査に加えて、新たな発見があるものと期待しています。(株)吉田建設 伊藤正志)



1 A1区・AP1区完掘(北から)



2 大型掘立柱建物(東から)



3 甕出土状況(東から)

整理報告遺跡

川久保遺跡

(南魚沼郡湯沢町大字神立字川久保ほか)

川久保遺跡の概要については、「埋文にいがた」第69号で紹介しましたが、今回は、接合復元作業の終了した土器について紹介します。特徴としては、周辺地域との関連を示す文様を持った土器が多く認められることがあげられます。川久保遺跡に集落を構えるのは縄文中期前葉からですが、この時期、新潟県内では海岸平野部を中心に、半截竹管を用いた爪形文や平行線文を特徴とする北陸系の「新保新崎式土器」が主体を占めます。しかし、山間部では北陸系の土器は少なく、中部高地を中心とした土器が多く認められます。中部高地系土器は「後沖式」(写真1 上左)「焼町土器」(写真1 左上以外)と呼ばれる土器です。「後沖式」は、斜行する沈線や隆帯による楕円区画が特徴です。また、「焼町土器」は大きな環状の把手や舌状の隆帯が特徴です。このほか、関東、中部高地に分布する「勝坂式」「阿玉台式」と言った土器もあります。

中期中葉になると、火炎型土器を始めとする越後独自の土器が多く認められるようになります。火炎型土器では最も古手とされる破片もあります。また、王冠型土器の把手は、バラエティ - に富みます(写真2)。これら火炎土器群は直接山を越えて群馬県に出ることはありませんでしたが、逆に関東地方の「加曾利E式」(写真3)と呼ばれる土器は後葉にかけて山を越えて入って来ます。この時期、新たに東北系の「大木式」が加わります。越後の火炎土器群と並んで最も安定して存在し、中心的位置を占めます。また、沈線で綾杉状の文様を描いた土器も特徴的です(写真4)。この土器は上中越地方を中心として分布するもので、同様の文様は信州地方でも多く認められ、「唐草文土器」と呼ばれています。写真4中央は、器形、文様構成が信州に近いものです。中期後葉から後期前半にかけても関東・中部高地の影響が見られます。

このように、川久保遺跡は群馬県境に近いこともあり、集落存続期間をとおして関東・中部高地方面と往来があったことを示しています。また、魚野川下流域(平野部)からは火炎土器群や大木式土器などが入ってきました。このように各地域の影響が認められる多くの土器が存在することは、当遺跡がこの地域の拠点集落であったことを物語っています。(高橋 保)



1 中部高地系土器



2 火炎型・王冠型土器の把手



3 関東加曾利E式土器



4 綾杉文を多用する土器

整理報告遺跡

ひめごぜ
姫御前遺跡

(糸魚川市東寺町)

姫御前遺跡は、海岸砂丘と山地から延びる丘陵の間に形成された、狭い平野部に立地します。古墳時代前期と室町時代の遺構・遺物が検出されたことは、本紙 58・66で紹介したとおりです。今回は、地層の観察から読み取ることができた環境の変化について中間報告します。

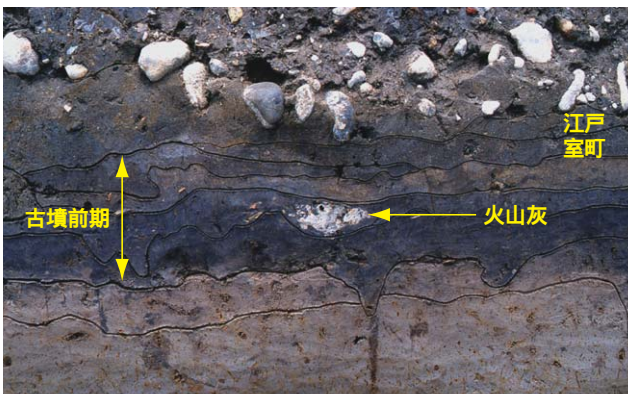
地層には、様々な情報が埋もれています。例えば、花粉は自らの子孫を残すために硬い殻^{から}に覆われているため、腐らずに残っています。また、イネ科の植物に触れると手を切ることがありますが、これは植物の中に細かなガラスが入っているからで、これもまた腐らずに残っています。花粉やガラスの形が植物によって異なることから、各地層にどのような植物の花粉やガラスが含まれているかを調べることによって、地層が堆積した当時の環境を復元することができるのです。姫御前遺跡の土に含まれる花粉やガラスの分析を綿密に行ったところ、縄文時代以来、鬱蒼^{うっそう}としたスギ林であったのが、古墳時代の幕開け頃からスギ林が徐々に減少し、水田が増加していくことが分かりました。その後は水田化が急速に進み、室町時代には集約的な生産が行われたことが明らかになりました。このことを裏付けるかのよう、姫御前遺跡の西側140mにある竹花遺跡では、古墳時代前期と室町時代の水田の跡が見つっています。

また、古墳時代前期の遺物包含層の間からは火山灰が見つかりました。そして、火山灰の上と下とでは、土器の顔つきが若干違うことが分かってきました。今後、土器の年代を決定する上で、重要な指標となると考えられます。この火山灰の化学組成を新潟大学で調べて貰ったところ、糸魚川市内の複数の遺跡のほか、上越市や新潟市で発見されていた古墳時代前期のもの^{やけやま}と一致しました。周辺の活火山としては焼山がありますが、古墳時代前期の活動は知られていません。しかし、火山灰を検出した遺跡の分布を見ると、供給源の候補の一つと考えられます。また、火山灰が降った後には、低地が水に浸るような環境に一変したことも分かりました。相互の関係は明らかではありませんが、焼山が活動していたとすれば、その影響で山体が荒れ、そこから流れ出る海川の流が蛇行するなど、流路に大きな変化が生じたことが想定されます。その結果、川の水が海に流れ出にくくなり、低地部分が水に浸かるような環境に変化したのかもしれない。

このように、地層を慎重に観察することで、様々な情報を引き出すことができます。たかが「土」と思われるかもしれませんが、多くの情報が詰め込まれたタイムカプセルといえるのです。現在行っている整理作業では、膨大な自然科学分析のデータを慎重に解析し、環境の変化と人々の暮らしを復元していきたいと考えています。(加藤 学)



姫御前遺跡近景(東から)



火山灰を挟んで検出した古墳時代前期の遺物包含層



火山灰と湿地化を示す泥炭層

第17回 遺跡発掘調査報告会・出土品展示を開催しました

9月5日(日)に糸魚川市の青海総合文化会館「きらら青海」を会場に「遺跡発掘調査報告会」を開催しました。第17回目となる今回は、平成13年度から当事業団が糸魚川市内で行ってきた北陸新幹線・国道8号糸魚川東バイパス関係の発掘調査が終了を迎えることもあり、これまでの調査の総まとめと、主要発掘調査遺跡の紹介を大きな目的として開催しました。

報告会当日は、隣県の長野県・富山県からお越しいただいた方も含め、約260名の参加があり、熱心に聴講いただき、盛況の内に開催することができました。厚く御礼申し上げます。

また、会場1階のギャラリーでは、9月3日から9月29日まで出土品展示を行い、約1,700名と多数のご来場をいただきました。糸魚川は、その代名詞ともいえる「ヒスイ」をはじめとする豊富な石材を用いた「玉作の里」であること、海上交通や「塩の道」を介した活発な「交流・交易の地」であることなど、遺跡から見た糸魚川地域の特徴について、より多くの方に触れ、理解を深めていただくことができました。

来年度は、参加者の方々からいただいたご意見等を参考にし、より充実した内容で、より多くの方がご参加いただけるような企画にしていきたいと考えています。開催に当たっては、皆様に広報紙・ホームページ等を通じてご連絡・ご案内します。今後も多数のご参加を期待しております。

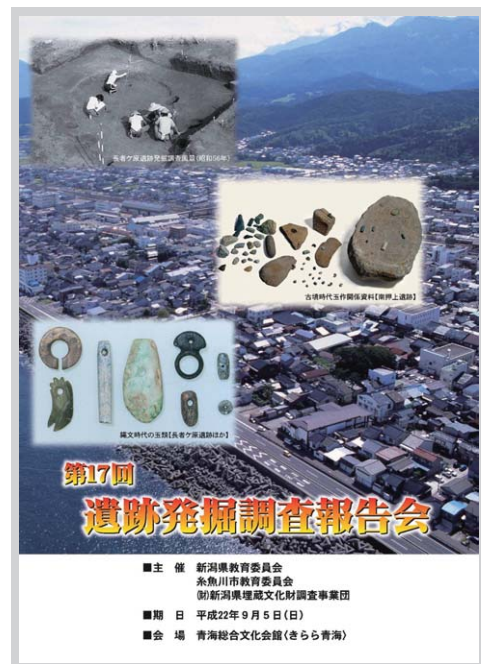
なお、報告会当日に配布した資料は当事業団ホームページで公開しています。是非ご覧ください。



遺跡発掘調査報告会の様子



出土品展示会場



県内の遺跡・遺物70

伊達八幡館跡出土品281点(平成20年3月指定)

(遺跡所在地:十日町市大字伊達甲1,222番地)

伊達八幡館跡は、信濃川右岸の標高約175mの河岸段丘上に立地します。昭和62(1987)年県営ほ場整備事業に伴い、市教育委員会が発掘調査を実施し、15世紀から16世紀代頃の空堀に囲まれた建物群など、館主要部の状況が明らかになりました。館は主郭(東西約40m、南北約50m)及び主郭西側に平行する副郭(東西約36m、南北約41m)と、さらにその外側を囲む建物群で構成されます。主郭内では掘立柱建物15棟、土橋1基、木橋2基、井戸2基、小空堀1条、排水溝1条を検出しました。出土品は、中国からの輸入陶磁器(青白磁・白磁・青磁・青花・中国天目)、国産陶磁器(珠洲焼・越前焼・信楽焼、土師質土器、瓦質土器、木製品(漆器椀・曲物・下駄)、石製品(硯・茶臼・粉挽き臼・砥石・石鉢など)、銅製品(管耳瓶・双耳壺・燭台・錫杖頭)、鉄製品(鏃・刀子・釘)、銭貨など、多種多様なものが見られます。特に注目されるのは銅製品です。これらは仏具として用いられるほか、部屋の飾りなどとしても用いられるもので、いずれも主郭正面の空堀底部から出土しており、何らかの祭祀的な意図を持って置かれた(埋納された)可能性があります。管耳瓶は首の部分の左右に管状の把手が付き、外面の上部と下部に饗饗文様(二つの眼を主体とする獣面の文様)が見られます。文様の特徴から中国の南宋時代(13世紀後半)に製作されたと推定されます。また、双耳壺は龍の頭部を模した把手に遊環(リング)を持つもので、元時代(14世紀代)のものと推定されます。これら2点は「唐物銅器」と呼ばれる、中国や朝鮮半島から輸入された青銅器で、国内外の類例もほとんどなく、極めて希少なものです。本館跡出土品は、希少品や、限られた階層の間でしか嗜まれていなかった「茶の湯」に用いる茶臼など、文物の流通状況や地方武士階層の日常生活を知る上で重要な資料です。

なお、館の主を直接的に示す文書等は確認されていませんが、鎌倉時代後期に上野国(現在の群馬県)の大豪族新田氏一族の鳥山氏が妻有地方(現在の十日町市・中魚沼郡)に所領を有していたことが知られており、同氏が南北朝時代以降も妻有地方周辺に存在することから、館との関連性が推測されます。



管耳瓶

(中央には龍文、その上下に饗饗文)

【写真:十日町市教育委員会提供 撮影 小川忠博氏】



(左2点:燭台、中央手前:錫杖頭、中央奥:双耳壺、左:管耳瓶)

埋文にいがたNo 72

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津 93番地1
TEL (0250) 25-3981
FAX (0250) 25-3986
e-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 阿部印刷株式会社